

脱罪術 其三 自然の研究

學は人爲なり故に我を癒すに足らず、我は人の造らざる自然に行かん、

* Pride often guides the author's pen;

Books as affected are as men;

But he who studies Nature's laws,

From certain truth his maxims draws,

And those without our schools suffice

To make man moral, good and Wise.* — John Gay.

誰か鳥類學者オージユボンの傳記を讀て彼の無玷純白なる生涯を賞嘆せざるものあらんや、アルプス山の眺望の中に養育されしルーイー＝アガシこそ罪なき自然の子供にして彼の一生は幸福の一連鎖たるが如し、身軀虚弱なるダーウキンは博物學の研究の中に靜肅有益なる一生を送れり、五百倍の目的鏡の下に細菌の發生を探研する時誰か人生永遠の墮落を意に留むるものあらんや、罪、未來の刑罰、皆不平人間の妄想なり、來て美麗なる自然と交れよ、鬱は散じ疑は解けん。

余は罪の觀念を以て責めらるゝの苦しさに一時は全く身を自然物の研究に委ねたり、而して詐りなき自然物は虚飾的偽善的の人造物と異り余を教へ余を慰むるに於て不^{すくな}勲^な功力を有せり、學者の未だ曾て知らざる新動物を

發見せし時のうれしさ、はん困なる事實を單純なる一つの規律の中に包括せし時の快樂、萬物は順序なり、規律なり、和合なり、自然と交はるものは宇宙の運行と共に靜肅平和ならざるを得ず。

然れども自然の人靈に及ぼす感化力は受動的にして主動的にあらず、自然は喜ぶものには喜ばしく見へ、悲しむものには悲しく見ゆるものなり、東臺の櫻花は萬人の歡喜を助くると同時に又無限の怨恨を寫すものなり、物は靈の婢僕にしてその主たる事能はざるなり、歡喜と悲哀とは我の心であり、シナイ半島の茫漠たるも勝ち勇めるミリヤムには高尚優美の讚歌を與へ、アルプス山の壯嚴なるも詩人バイロンの炎熱を冷卻する能はず、瑞西國の山嶽ありてルイⅡアガシありしにあらず、天アガシを降してアルプス山の岩石は識化(Intellectualize)せられたるなり、南米の地質、ガルパゴス島の動植物はチャレーヌⅡダーウキンを造らず、天ダーウキンを送て進化論世界に普し、靈は物を靈化し得るも物は靈を化するを得ず、自然物は我心中の病を治する能はざるなり、そは自然は生命の境遇にして其源因ならざればなり、勿論周圍の有様は生命の發達に大關係なきにあらず、然れども病若し生命其物に存する時は周圍如何程善良なるも之れを癒す事能はざるなり、自然は病める靈魂を醫する上に於て大助力たるに相違なし、恰も清淨溫暖なる空氣は結核病患者を治する爲には大效力を有するが如し、然れど腔内の黴毒は外用劑の達し得べきにあらず、罪てうもの若し心靈の病なれば之を癒すものは心靈的の力ならざるべからず。

学問は人間が作り上げたものであり、それゆえに私をいやすには不十分だ。私は人が造らない自然へと赴こう。
しばしば、作者のペンを導くのは傲慢さである。

本も、人と同じように気取っている。

しかし、自然の法則を研究する者は、

確かな真理からその原理を導き出し、

それらの真理は我々の学校の外にあっても十分、

人を道徳的に、善良に、そして賢明にする。——ジョン・ゲイ。

誰が鳥類学者オーデュボンの伝記を読んで、彼のきよらかで純粋な生涯を賞賛しないであろうか。アルプス山の眺望の中で育てられたルイ・アガシこそ、罪なき自然の子どもであり、彼の一生は幸福の一連鎖であるかのようだ。病弱なダーウィンは、博物学の研究の中に静かで有益な一生を送った。五百倍の対物レンズの下で細菌の発生を探究する時、誰が人生の永遠の墮落を心に留めるであろうか。罪、未来の刑罰は、すべて不平な人間の妄想である。来て、美しい自然と交われ。憂鬱は散り、疑いは解消されるだろう。

罪の意識に責められる苦痛から逃れるため、私は一時的に自然科学の研究に完全に身を投じた。そして、偽りのない自然物は、虚飾的で偽善的な人造物とは異なり、私を教え、私を慰めるにおいて少なからぬ功力を持つて

いた。学者がいまだかつて知らなかった新動物を発見した時の喜び、煩雑な事実を単純な一つの規律の中に包括した時の快楽。万物は順序であり、規律であり、調和である。自然と交わる者は、宇宙の運行とともに静粛と平和を得ざるを得ない。

けれども、自然が人々の精神に及ぼす感化力は受動的であり、主動的ではない。自然は喜ぶ者には喜ばしく見え、悲しむ者には悲しく見えるものにすぎない。上野台の桜花は、万人の歓喜を助けるのと同時に、また無限の怨恨を写すものでもある。物は精神のしもべであり、その主となることはできない。歓喜と悲哀とは我々の心の中にある。シナイ半島が廣大であっても、勝ち勇んだミリアムには高尚優美な賛歌を与え、アルプス山が壯麗であつても、詩人バイロンの炎熱を冷却することはできなかった。スイス国の山岳があつてルイ・アガシがいたのではなく、天がアガシを降して、アルプス山の岩石は識化 (intellectualize) されたのだ。南米の地質やガラパゴス島の動植物はチャールズ・ダーウィンを造らなかった。天がダーウィンを送り、進化論が世界に広まったのだ。精神は物を精神化できるが、物は精神を変化させることはできない。自然物は我々の心の中の病を治すことはできない。なぜなら、自然は、生命が生きるための環境であつて、生命そのものの根本的な原因ではないからである。もちろん、周囲の有様が生命の発達に大いに関係がないわけではない。けれども、病がもし生命の根本にある時は、周囲がいかに善良であつても、これを癒すことはできない。自然が病んだ心を癒す上で大きな助力となることに違いはない。ちょうど、清浄で温暖な空気が結核病患者を治すためには大きな効力を持つようなものだ。しかし、体内の梅毒は外用剤の達し得るところではない。罪というものがもし心霊の病であるならば、それを癒

すものは心霊的な力でなければならない。